

学校評価(最終)のアンケート結果についての考察と今後の対応

(学校教育目標)すすんでかわり 生き生きとくむ今富っ子			
	心(思いやりのある子)	頭(学びに夢中になる子)	体(健康でたくましい子)
成果 ◎と 課題 △	<p>◎大半の項目が、目標数値を上回っていた。特に教職員の取り組みがすべて100%であり、居心地のよい学校・学級づくりのA評価が中間より10%以上高い。</p> <p>◎ふるさと学習の保護者の評価は、低学年が目標数値には届かなかったものの、中間よりも10%以上高くなった。また3年生以上も微増となっており、2学期以降の学年便り等での発信の効果があったと考えられる。</p> <p>△居心地のよい学校・学級づくりについて、児童のA+B評価が中間より2%減、D評価が2%増となっている。児童間トラブルの発生の影響と考えられる。</p> <p>△あいさつについて、90%の児童が取り組んだと回答しているが、A評価が中間よりも6%減少している。日中の校内でのあいさつの様子は良好だが、朝の登校時のあいさつの声が少なくなっている。</p>	<p>◎大半の項目が、目標数値を上回り、中間評価よりも向上した。特に、授業者のA評価が約10%程度高い。全教員が授業づくりに対して尽力したことと研修でのふり返りで意識化できたことの成果であることが考えられる。それによって、児童の授業に関する項目の数値の向上にも繋がっている。</p> <p>◎「お子さんは、自分にあつためあてをもって、計画的に家庭学習に」の項目は中間よりも改善し、目標値を達成した。学期ごとに家庭学習の手引きを振り返る時間を設定し、2学期のめあての設定につなげた成果でないかと考えられる。</p> <p>△低学年の保護者の家庭学習に関する項目の目標値は達成したが、中間よりも下がった。また、家庭学習に関する項目の教師のA評価と児童の評価が低下している。</p>	<p>◎大半の項目が、目標数値を上回り、中間評価よりも向上した。特に、教職員並びに児童の値が高かった。生活習慣に関する項目では、「早ね・早起き」の大切さが、学校と家庭とで共有された結果、目標数値を上回った。</p> <p>◎業間マラソンとハピネススポーツの取り組みを、体育委員会と連携して実施した結果、児童・教師の目標数値を上回った。タブレット端末や名札により、個人取り組みが、見える化されたためではないかと考えられる。</p> <p>△家庭での体力の向上への取り組みの値が低い。中間と比較して、5%低下している。家庭と学校と連携した体力向上の取り組みが必要である。</p> <p>△家庭での「今富スマートルール」を意識した過ごし方の項目が、中間と比較して3.1%低下し、目標数値を下回った。</p>
改善策 対応策	<p>・道徳や学活を中心に、日々の生活を通して人権意識の醸成を行っていく。教育相談を丁寧に行い、トラブルの早期発見・早期解決に努める。</p> <p>・2学期以降、集団登校の到着時刻が早い班が増えており、玄関前でたくさんの児童が待機して、あいさつをする前に友達と話し始める様子が見られる。また、大変眠そうな様子で登校している児童も多い。道徳や学活を通してあいさつの大切さを指導すると同時に、登校時刻の調整や早寝の指導をしていく必要がある。</p>	<p>・学年の実態に応じて、児童や教師が定期的にふり返りやめあての見直しができるようにするために、家庭学習の手引きを紙媒体に加えデジタル化する。デジタル化することで、児童がいつでも目標や現状を共有したり、ふり返ったりすることができる。教師は、個に応じたアプローチやフィードバックがしやすくなる。紙媒体での活用については、常に視覚化できるところに貼っておくことで児童と保護者が目標や現状を共有しやすくなる。</p>	<p>・生活習慣の指導に関しては、学校と家庭の連携による、一層の個別指導の充実が求められる。</p> <p>・家庭での体力向上に関しては、例えば、学校での取り組みの発信や「家庭でも一人でもできる運動の例」の紹介等、保護者が理解し、家庭で実施できるような例を紹介していく。</p> <p>・「今富スマートルール」を意識した家庭生活では、学校ホームページやタブレット起動画面の背景への表示、PTA総会での呼びかけ等、学校と保護者とのルールの共有強化を図る。</p>